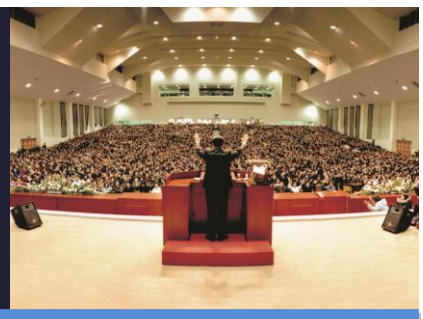
第 2018-27 号

恵みと真理のニュース



2018 年 7 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

悲しみが変えて喜びになるようにしてくださった神様に感謝と賛美を捧げます

私が母の胎内にいる時、親がイエス様を受け入れ私は子供の時から教会に通いました。神様を信じる理由と意味も知らないまま両親をついて教会に行きましたが、中学2年生の時、参加した夏の修練会で救いの恵みと真理を悟り涙で悔い改めながら聖霊洗礼も受けました。その後、教会学校で熱心に聖書勉強をして神様を礼拝する生活をしました。
高校入学試験の準備する時、英語の成績が悪かったので母はプライベートレッスンをさせてくれました。私は熱心に勉強して最優秀クラスに入ることが出来ました。とてもうれしくて感謝でした。どころが、担任先生が主日にも学校に来て自律学習をさせました。私は少し葛藤しましたが、依然と同じく教会に行って礼拝し、聖歌隊でも奉仕しました。担任先生の連絡を受けた母は主日は当たり前に教会に行って神様に礼拝を捧げるべきだと話して先生から許可をいただいて、朝早く礼拝をした後、午後には学校に行って勉強しました。このように神様は礼拝し祈りながら勉強すると神様の恵みで初めても模擬試験の時、科学で全校1等をする驚くな経験をしました。全般的な試験点数は中位くらいだったので、私は神様の恵みを体験しました。勉強に興味がなく過ごした私が高校2年生のある日、朝早く働くため出かける母の内緒で漫画を読んでいた私に、聖霊様が感動を与えてくださり、“「父と母を敬いなさい。」これは約束を伴う最初の掟です。（エペソへの手紙６：２）という御言葉を下さって悔い改めの祈りをさせました。その後、私は勉強に興味が出来て中間試験の五日間、寝なくて勉強して全校で6等をする驚くな結果を出せました。大学入試が近づいた3年生の時、大事な模擬試験が日曜日でした。その時も私は朝早く教会に行って礼拝を捧げた後、学校に行って試験を受けました。先生がカンニングを疑うほど大きく点数が上がりました。その後、ソウルにある有名な大学に無難に進学しました。
入学したらただ楽しそうだった大学生活が考えとは違いました。何よりも酒を飲まなくて主が喜ばない事は拒絶して節制したら大学生活に適応することが大変でした。2年生の時から敵性と進路を深く考えなくて友達をついて専攻を機械工学で決めましたが、適応しなくて軍服務を終えて復学してから化学工学で変えました。そして、卒業する時、就職が大変でした。そうするうちに、わたしのため祈ってくださった執事を通してチョンアンにあるプレス会社を紹介され就職しました。神様が私を導いたと思い予定通り会社の面接を受けなくて入社を決定しました。
いざ、会社に入って仕事をしながら不平不満をしました。会社があまりにも辺鄙な場所にあって寮の施設も劣悪で祈る時も感謝より不平をする祈りになりました。すると、神様が御言葉と聖霊で私を悟らせてくださり、希望の中で忍耐するようにしてくださいました。長い忍耐が終わってやがて息子のイサクを得たアブラハム、さまざまな苦難を信仰で乗り越えて神様が下さった夢を成し遂げたヨセフのように信仰の先祖達を考えながら感謝する祈りを捧げました。
“わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。”（エレミヤ書３３：３）という御言葉を持って一ヶ月が過ぎた時、アンヤン聖殿でわたしの信仰生活に大きく助けてくださった按手執事のお二人が安否の電話が来ました。電話で励ましあって“神様が執事をあそこに送った御心があると思います。そして神様の摂理を期待して祈りながら努力しなさい。”としました。再び会社を探してちょうど大企業の試験が始まって願書を申し込みました。わたしの専攻と大きく関連もない良く知らない分野でしたが、神様の導きと助けによって志願しました。
書類に合格してから面接を受けながら私は“神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。”（ローマ書８：２８）という御言葉のように、今までの全ての過程が神様がわたしのため予備して導いてくださった過程だったのを悟るようになりました。記述面接で大学機械工学と化学工学で習った知識を応用して発表したら面接官が“他の会社ではこんな人材をなぜ逃したか？”とほめられました。役員達の最終面接でもプレス会社の品質部長がしてくださった話を引用して私が考えてもすばらしい答えをしました。面接を終えて外に出ると自ら感動を受け合格を確信しました。以前には専攻を間違って時間を無駄に使ったと考えたが、人里離れて劣悪な環境の会社だと不平だけしたが、神様は万時が益となるように共に働いてくださいました。
神様がまた真実な信仰を持つ姉妹に出会って信仰と愛が溢れている家庭を作るようにしてくださいました。アンヤン聖殿の主日礼拝聖歌隊で奉仕した2002年に高校を卒業したばかりの姉妹が聖歌隊に入って奉仕し始めました。知ってみれば高校部で聖歌隊で一緒に奉仕したことがある後輩でした。それでもっと好感を持つようになって共に平日礼拝も参席しながらよく会うようになりました。ワールドカップサッカ大会が開かれる頃、交際して、当会長の牧師の説教の中で夫婦と家庭生活のメッセジ一を聞いて神様が与えた配偶者だと確信を持ちました。後で知った事実ですが、わたしの父と義父は私達が交際する前から同じ部署で奉仕しながら仲良く過ごしていました。私達は共に聖歌隊で奉仕しながら8年間付き合って私が就職した後、2010年の冬に結婚しました。しかし、結婚してから私が礼拝を疎かにして信仰生活に怠惰な時がありました。すると神様は私を酷く責めて、悔い改めるようにしてくださいました。“ 主も最後まであなたがたをしっかり支えて、わたしたちの主イエス・キリストの日に、非のうちどころのない者にしてくださいます。”
（コリント信徒への手紙1：8）と御言葉を深く黙想して熱心に信仰生活をするように摂理してくださいました。
チョンアンに新婚生活をしながら会社が忙しくて教会が遠いという言い訳をして平日礼拝を疎かにしました。主日も会社で働く時はインタネットで御言葉を聴きながら上の空で礼拝をしました。そのように教会と離れると世と妥協するようになり、たまにお酒も飲みました。その時に妻が初めの子を妊娠しました。結婚して1年になった時です。出産当日、出産準備をするためあらかじめアンヤン実家にいた娘に出会って共に病院に行きました。まず、分娩室で入った妻から信じられない話を聞きました。“赤ちゃんの心臓が動かない。”私は大きい衝撃を受けて言葉を失いました。信じられない現実に涙だけ流しました。どころが妻はそんな私の前に“確かに神様の御旨があるだろう。”と信仰の話をしました。そして、涙で子を死産しました。私は一人で静かに子を死蔵して自分の過ちを悔い改めて神様に悔い改める祈りをしました。神様は私にとって徹底的に悔い改めさせました。私は会社で神様を信じる生徒であることと酒を飲まないのを宣言しました。そして、以前のように礼拝中心の生活に戻りました。妻も聖霊様から慰められて大きい悲しみを経験した人でなくもっと熱心に聖歌隊の委員を預かって奉仕しながら、神様の福を求めました。家はチョンアンにありましたが、妻はアンヤン聖殿で熱心に主の事をしました。聖歌隊員の慶弔時にも休まずに参席して他の方々を慰めたり、また共に喜びました。
わたしの夫婦は新しい心と覚悟を持って2014年からチョンアン聖殿で教会を仕え始めました。教会で妻は女性奉仕連合会と会計と区域長の職分を任されて、私には金曜礼拝の聖歌隊を指揮する尊い職分もくださいました。金曜日の夜まで会社で仕事をしなければならない時もありましたが、勤務時間を調整して献身するように神様が助けてくださり、主日聖歌隊の指揮まであずかってくださいました。熱心に主の事をするならすぐ出来ると思った赤ちゃんがなかなか出来ませんでした。一年二年時間が経ちながら妻の体が弱くなりました。試験管の施術も考えましたが、祈り時に確信がなかったので迷いました。病院でも妻の健康の状態の理由で待ちまなさい。”言われました。どころが、去年2月、以前、妻の胸にあるこぶについて追跡検査が必要だと言われたのが思い出しました。それで、不安な心で検診を急ぎました。7月に予約していた検診を3月で急いで変形して妻と共に健康診断を受けました。その結果、妻の胸にあるこぶが大きくなって模様も悪いと言われました。すぐ、外科で除去手術を受けました。妻には大変な時間でしたが神様に感謝することが出来ました。もし、このような治療がなかったならば妊娠した場合、女性ホルモンの増加によってこぶが大きくなった思いもっと大きい病気に進行したからです。神様が私を待たせて子を持つ前、治療をさせたと思います。そのような信仰の考えをする時、入試面接の状況と似ているので私は妻に“神様が、もうすぐ私たちに赤ちゃんを下さるようだ。”と信仰と希望の話しをすることができました。その後、6月ある日、妻に2週が超えるほど腸炎の症状が続きました。妻は妊娠を予想しなくて検診をするため病院に行ったら妊娠したのを知るようになりました。
教区長と区域長達が毎週の初めの週に7日間エリコ祈り会をして妻の妊娠のため神様に祈りましたが、神様が答えてくださいました。妻の体が弱い時に妊娠して病院ではあまり動かなくて軽い運動だけ支持しましたが、私たちの赤ちゃんは普通の胎児の平均より２週早く健康な姿で育ちました。今年３月８日、神様は私達の夫婦にかわいい息子をプレゼントでくださいました。
毎日家庭礼拝を通して子供を抱いて礼拝を捧げる日を希望して切に願い祈った私たちに希望を成し遂げてくださった神様の恵みに感謝します。神様は私に福を与えてくださって会社で思わぬ昇進をして、出産休暇期間が増えて出産する妻の隣で多くの時間共にいることが出来ました。悲しみが変えて喜びになり、逆境を通してもっと揺るがない信仰を与えた神様、万事が益となるように共に働いてくださる神様を賛美します。魂が恵まれているように、あなたがすべての面で恵まれ、健康であるようしてくださり、足りない私を主のことに用いてくださる神様にすべての栄光を捧げます。ハレルヤ！

［信仰コラム］　信仰の出処

＂そして， イエス の 名が， それを 信じる 信仰のゆえに， あなたがたのいま 見て 知っているこの 人を， 強くしたのであり， イエス による 信仰が，彼をあなたがた 一同の 前で， このとおり完全にいやしたのである．＂（使徒言行録 3:16）

その人がある性格の信仰を持っているかということと信仰をどこに適用しているかということはその人の生涯と運命に決定的に重大な影響を及ぼします。これに関して私達が正しい知識を得るためには必ず聖書を読まなければなりません。聖書は信仰に関して人が必ず知るべきな確実で貴重な知識を提供しています。
本分の御言葉はイエス様の弟子ペテロとヨハネがお祈りするために聖殿に入る途中、聖殿の門の前で袖乞いする足のきかない者を奇跡的な癒しを受けさせた後、ペテロ使徒がエルサレム聖殿の外の東側にあるソロモンの廊に群集した群衆に説教したことです。ペテロは足がきかない者が奇跡的な癒しを受けた要点三つを話しました。一つは＂イエスの名を信じる信仰のゆえに＂であります。二つは、＂イエスの名を信じる信仰のゆえにあなたがたのいま見て知っているこの人を強くしたのだ＂であります。三つは、＂イエスによる信仰が、彼をあなたがた一同の前で、この通り完全に癒したのである＂です。信仰の根拠と対象がイエスキリストです。イエスキリストは信仰の根元になり、イエスキリストによる信仰を持った人にその信仰が実際化にしてくださいます。イエスキリストによる信仰はとても多用です。
第一、贖いの信仰です。神様が救い主イエス様を送らせてくださり私達の罪を贖ってくださいました。そして私達に求められるのは信じることだけです。第二、とこしえの命の信仰です。とこしえの命を得た人々はイエス様の再臨の前に死んでも、イエス様の再臨の際に生きていても二番目の死がありません。とこしえの命の信仰はひたすらイエスキリストによります。第三、神様の子になったという信仰です。イエスキリストを信じると私達の魂が生まれ変わる変化を受けます。神様から生まれるこの神秘な出生をした人は神様の子になります。第四、神癒の信仰です。イエス様の贖いの中には私達の惰弱と疾病の癒しも含まれています。使徒ペテロは足のきかない者が癒されたのはイエス様の名を信じる瞬間、神癒の信仰ができた結果でできたと力説しました。第五、この世に勝つ信仰です。この世には絶えずに誘惑と逼迫、艱難が迫ります。しかし、私達の先にこの世に勝たれたイエス様が私達にもこの全てを勝つように手伝ってくださいます。第六、天国と復活に対する信仰です。この世で私達が受ける全ての悲しみと絶望を克服させる最も大きな望みは復活と天国に対する信仰から出るのです。
私達にこのような信仰を与えられるためにイエス様がいかなることをなさったかを私達が知らなければなりません。
一、イエス様の誕生です。神様の独り子が父なる神様の言約なさった御言葉を叶えるために乙女の体に聖霊で産まれ人として来られた事件です。イエス様の誕生は神様の愛と能力、そして神様の真実を完全に表わしました。二、イエス様の死です。罪が全くない神様の独り子が人間の罪を代りに担当して十字架につけられて死なれました。私達が受けるべきの審判を代りに受けられたのです。三、イエス様の復活です。イエス様は聖書に予言されただけではなく、御自分が数回に予告なさった通りに死んで３日目に復活なさいました。そうして贖いが完遂されたことを明らかになさいました。四、イエス様の再臨です。聖書にはイエス様の再臨をイエス様の誕生より多く予言しておきました。イエス様は聖徒達を復活させてくださり、この世を審判なさるために再び来られます。
イエス様が乙女の体に聖霊で産れ、誕生なさい十字架につけられて贖いの死をしなれて、死亡を勝たれて復活なさったことと将来、私達を再びつれに来られるという約束による信仰はこの世の何とも変えることができません。皆さんは、全てイエスキリストによるこのような信仰が実際と現実になることを体験する幸福を享受してください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

クリスチャンの生の崇高な動機と目的

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

クリスチャンと非クリスチャンを見分けることは非常に簡単です。「あなたは、イエスを信じますか？」という質問をしてみるとわかります。しかし、実際には別の一つ質問をして見ると正確に知ることができます。「あなたは、イエスが誰だと思いますか？」という質問です。自分が信じているイエスが聖書に明らかにされているイエスでなければなりません。イエスは、聖書の通りこの世の中に来られ聖書のどおり生きて聖書のどおり死なれ聖書のどおり復活なさいました。そして聖書のどおり再臨するでしょう。イエスを聖書に明らかにされているのを知って信じる人が真のクリスチャンです。クリスチャンはクリスチャンだけが持つ人生の動機と目的があります

今日の聖書の本文には、次のように記録されています。**「それで， わたしたちは 心強い．そして， むしろ 肉体から 離れて 主と 共に 住むことが， 願わしいと 思っている． そういうわけだから， 肉体を 宿としているにしても， それから 離れているにしても， ただ主に 喜ばれる 者となるのが， 心からの 願いである．なぜなら， キリスト の 愛がわたしたちに 強く 迫っているからである． わたしたちはこう 考えている． ひとりの 人がすべての 人のために 死んだ 以上， すべての人が 死んだのである． そして， 彼がすべての 人のために 死んだのは， 生きている 者がもはや 自分のためにではなく， 自分のために 死んでよみがえったかたのために，生きるためである」（ コリント人への第二の手紙 5：8,9,14,15）**

これから本文に記載された、クリスチャンであれば誰でも持つ生活の崇高な動機と目的を説明します

第一は、キリストの強く 迫っている愛がクリスチャンの生活における崇高な動機です。

使徒パウロは言った、**「キリストの 愛がわたしたちに 強く 迫っているからである」（コリント人への第二の手紙 5:14）**しました。**エペソ人への手紙 3章18節、19節に記録されることを「すべての 聖徒と 共に， その 広さ， 長さ， 高さ， 深さを 理解することができ，また 人知をはるかに 越えた キリストの 愛を 知って， 神に 満ちているもののすべてをもって， あなたがたが 満たされるように， と 祈る」**しました。キリストの愛を指して「知識にあふれる愛」としました。キリストの愛は、人間の知識では到底に知ることができない神秘的な驚きべき愛であり、私たちの理解が及ばない超越の愛です

神が罪犯した人間のためにひとり子をこの世に送って十字架につけられ罰を受けたのは、人間の理解と知識を超越することです。また、聖者、神が人間の醜い罪を担当してあがないするために、人の体を着てこの世に来られ、人たちにあらゆる蔑視を受け十字架につけられ死んだのは、人間の理解と知識を超越することです。したがって、神の選ばれと聖霊様の助けがなければ、イエス・キリストの愛を覚るのができません

キリストの愛の**「また 人知をはるかに 越えた キリスト の 愛を 知って， 神に 満ちているもののすべてをもって， あなたがたが 満たされるように，と 祈る」（エペソ人への手紙 3:19）**しました。キリストの愛の"広さ"は、すべての人に及ぶように多めです。キリストの愛の"長さ"は、時間の制限を超えて永遠です。キリストの愛の"高さ"は、罪人を天国に達するように高くなります。キリストの愛の"深さ"は、罪人を救うために死なれ黄泉に降りるほど深いです。キリストの愛は、豊かな愛です。キリストの愛は、誰も彼が何も壊すことができない愛です。キリストの愛は、差別のない愛です。キリストの愛は永遠の愛です

使徒パウロは、キリストの愛が私たちを強く迫っているとしました。「強く 迫っている」とは、「強制的であるが、抑制である、魅了、支配する、圧倒的であるが、逆らうことは困難の力をもっている。」という意味があります。使徒パウロのすべての活動の動機は、このように強く 迫っているキリストの愛でした。パウロはダマスコ道の上でキリストの愛に捕われて強く 迫っているキリストの愛に基づいて、エルサレムから小アジア、欧州に至るまで広範囲に通って福音を伝えました。

人は所有欲か、支配欲か、同情の情か、芸術的な欲求などの何が彼を強く 迫っているかによって、彼の人生を形成します。聖徒の皆さんは、すべて「キリストの愛が私を強く 迫っている」と言われるようにしてください。これより崇高な人生の動機はありません

第二には、私達に代わって死んで再び黄泉帰った、キリストのために生きることがクリスチャンの生における崇高な目的です。

使徒パウロは言った、「キリストの愛が私たちを強く 迫っている」とし**「 キリスト の 愛がわたしたちに 強く 迫っているからである．わたしたちはこう 考えている． ひとりの 人がすべての 人のために 死んだ 以上， すべての 人が 死んだのである」（ コリント人への第二の手紙 5:14）**しました。聖書が言う死は三種類に分類されます。 第一に、肉体の死があります。肉体と魂が分離される現象です。肉体の死は、アダムの罪によったものであり、キリストの再臨までは、すべての人が経験する必然プロセスです。第二に、霊の死があります。これは、人間と神との分離です。神がアダムに善悪を知る木の実を食べると、きっと死ぬであろうと言われましたが、これは神との関係が断絶されている 霊の死までを意味することです。第三に、二番目の死があります。キリストの再臨後罪人が最後にさばきを受け、永遠に苦しみを経験する火の池に投げ込まれることを意味します

「一人がすべての人に代わって死なれた」という言葉は、すべての人の罪を贖うためのイエス・キリストの死を意味します。そして「すべての人が死んだのだ」という言葉は、キリストを信じる者が、キリストと連合したことを意味します。イエス・キリストが来られ、贖いの働きを果たしたわけで彼を信じる者は、キリストに連合することになり、キリストのゆえに義人となって永遠の命を得るのである。アダムに連合されるのは選択の余地がありません。血統によるものです。しかし、キリストに連合するのは自発的な信仰による選択的に決定されます

キリストの贖いの死と死からの復活は、これを信じる者に永遠の命を得るだけでなく、今からは新しい目的を持って生きるようにします。

「そして， 彼がすべての 人のために 死んだのは， 生きている者が もはや 自分のためにではなく， 自分のために 死んでよみがえったかたのために， 生きるためである」（コリント人への第二の手紙 5:15）しました。キリストのために生きるということは、キリストを喜ばれるようと、すべてのことを行うことを意味します。使徒パウロは言った**「それで，わたしたちは 心強い． そして， むしろ 肉体から 離れて 主と 共に 住むことが， 願わしいと 思っている．そういうわけだから，肉体を 宿としているにしても， それから 離れているにしても， ただ 主に 喜ばれる 者となるのが， 心からの 願いである」（コリント人への第二の手紙 5：8,9）**しました

私たちがどのように生きていくことが主に喜ばれるのかをいくつかのポインタを説明します。神にすべてのことに感謝する気持ちで楽しく生きていくのが主を喜ばれます。神の性格にふさわしく行うことがまた主を喜ばれます。神の属性のうち、被造物は決して所有することができない属性があります。全知全能で、どこにでもおられ、無限の属性のようなものです。しかし、人間が神と関連して持つことができる性格があります。善意、正義、真実のようなものです。**エペソ人への手紙 5 章では、「あなたがたは，以前はやみであったが， 今は 主にあって 光となっている．光の 子らしく 歩きなさい 光はあらゆる 善意と 正義と 眞實との 実を 結ばせるものである 主に 喜ばれるものがなんであるかを， わきまえ 知りなさい．」（エペソ人への手紙 5：8～10 ）**しました。善良で生きています。義なる生きています。真実に生きています。

また、礼拝をささげることが主を喜ばれます。人の存在理由の中で一番が神を礼拝することです。福音を伝えることは、主を喜ばれます。福音を伝えるには、聖徒たちに向けた地上の命令です。福音を伝える人に施す最高の愛と慈善です。キリストの体なる教会に仕えることは主に喜ばれます。キリストのために住んでいる人は、教会の徳益を与える言葉と行動をします。

人々が尋ねるのは、なぜそのように熱心に信仰生活をしますか？とすると、「私のために死なれ、死から生きているキリストのためにです。」と答えてください。あなたは、なぜそのように迫害を受けながらも、伝道するのですか？と尋ねたら、「私のために死なれ、 死から生きているキリストのためにです。」と答えてください。

クリスチャンは、一様な動機と目的を持って、すべてのことを行わなければなりません。強く迫っているキリストの愛が動機となって生きて行かなければならないです。私たちに代わって死んで 死から生きている、キリストをために生きる目的で生きて行きます。使徒パウロがカイザリヤの法廷に立って述るときずっとキリストについて言うとベスト総督が声を高く「パウロよ、あなたは狂ったあなたの多くの知識があなたを狂っている」しました。パウロが答えるのを「ベストよ、私は狂ったのではなく、真実の精神返った言葉をいうのである。」しました。これらの崇高な動機と目的で生きていく人は、誰が何とするか気につくことはできません。愛する皆さんは 強く 迫っているキリストの愛が動機となって、私たちのために死なれ、 死から生きているキリストのための目的で生きて行かれるのを願っております。